

## 中立的者の意味

### レフェリーとアンパイアの課題

**PI-Forum** 理事 山中英生  
(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授)

**PI-Forum** は中立的立場から合意形成の仕組み・技術・知恵を社会に提供することを役割として掲げている。

我が国の公共政策の合意形成手続きによく話題に出る第三者機関は、学識者・有識者の会議か、関係者を加えた協議体などで、行政へ助言・勧告をしたり、手続きの監視や管理をする「お墨付き」の役目を持つ。しかし、時としてメンバー構成や委員長の中立性が問題視されたり、会議運営事務局やコンサルタントの中立性へ対する疑義が生じる。一方、ワークショップなどで、中立的第三者としてファシリテータを登用する事例も増えており、また、合意形成プロセスの運営者として、建設・都市計画コンサルタントなど豊富な実績を有する専門的な実務者も育成されつつある。ただし、このような人たちも、選定方法、契約方法などの懸念から、中立的第三者の信頼を得るには難しい状況も多い。実務の中で中立者を生みだし、機能させるしくみについては模索の最中であるといっていだろう。

中立者、ファシリテータ、メディエーターはよく、スポーツのレフェリーに例えられる。レフェリーはゲームがフェアに行われるために働くが、勝敗に関心は持たない。スポーツでも、レフェリーの中立性が話題に上ることは多いが、すくなくとも育成や選定方法などの「しくみ」として、中立者を作り、機能させているといっていよい。

ところが、スポーツの歴史を調べてみてわかったが、このしくみは最初からあったのではないようだ。

サッカーはイギリスの中世から民衆で楽しまれていたボールゲームに起源をもつが、ルールとして明文化されたのは 19 世紀中頃のパブリックス

クールでのフットボールが最初とされる。この時代は学校によってルールが異なり、審判（アンパイア）も学内関係者が行っていた。なので、対外試合をするにはルールのすりあわせをしなければならなかった。1962 年のイートン校とハロウ校の卒業生対抗戦では次のようなルールがあったという。

- ✓ キャプテンとアンパイアを両チームごとに選ぶ。
- ✓ アンパイアへのアピールはキャプテンのみが行う。
- ✓ キャプテンとアンパイアが相談して中立の人物をレフェリーとして指名する。
- ✓ アンパイアのアピールがあった時、レフェリーが決定を下し、それが最終となる。

(18 ページへつづく)

## —目次—

中立的者の意味:レフェリーとアンパイアの課題(山中英生)	1
------------------------------	---

### 招待論文

政策課題抽出支援のための問題構造化手法とその合意形成手法への適用可能性 (加藤浩徳)	2
我が国の中央政府レベルにおける参加型政策分析の普及・定着に向けた戦略:討議型世論調査を事例に (田原敬一郎)	6
ヨルダン・パレスチナ・イスラエルのコミュニティが主導する、エコツーリズムを通じた平和実現のための越境プロジェクト (G.ブロムバーク)	10
なごや循環型社会・しみん提案会議紹介:社会の中で動き出したハイブリッド型会議 (前田洋枝、柳下正治)	14
編集後記	19

## 中立者の意味:レフェリーとアンパイアの課題

**PI-Forum** 理事 山中英生

(1 ページからつづく)

アンパイアとレフェリーは選定法、役割が明確に分かれている。レフェリーは場外にいて、アンパイアの裁定が食い違った時に、査定を下す役目であった。しかし、サッカーが普及するにつれて、選手の非紳士的行為を反則として判定し、試合を止める笛を持ち、反則にフリーキックを与えるなどの権限を持つように順次ルールが改正されていく。その結果、反則が判定しやすい現場に入り込み、選手と一緒に走らようになる。そしてアンパイアは次第に線審として事実を報告するだけのジャッジへと変化した。

古い時代のレフェリーの形はテニスに残っている。テニスのレフェリーは試合日程、組み合わせを決める役員の役割があるが、その他「チェアアンパイアのルール解釈に関する判定に不服があるプレイヤーは、それをレフェリーに提訴でき、そのレフェリーの判断は最終となる。」という役目がある。

スポーツは文化そのものであり、愛好する社会がそのルールを作り、育てる。そして、中立者としてのレフェリーというルールを機能させる役目が多くのスポーツに共通して生まれている。

社会政策の合意形成において、どのような社会ルールが成立し、どのような中立者を必要とするのか、これも多様な実例が文化として形作っていくものなのかもしれない。サッカーのレフェリーのように選手と走る現場型、テニスのように問い合わせに応じて答える裁定者、それぞれの形が必要で、あるべき育成やしきみづくりも必要であろう。

**PI-Forum** の理事に参加して1年、筆者はどちらかというと現場型で動きたいと思いながら、テニス型であった気もする。**PI-Forum** 自体も、ルールづくりの提案から、自らが中立者としての機能を持つことが要請されつつある。その発展に期待し、また関与していきたいと考えている。

**PI-Forum**異分野 **PI** 交流ワークショップ (2007年度)「合意形成市場の展開を探る」第1回

## システム構築・ネットワーク管理への 合意形成手法の適用

～ITの世界でも「合意形成」は必要！～

2007年ワークショップ第1回は、長年のシステム構築経験を持つ田熊伸好氏と、インターネット上の共有資源(IP アドレスやドメイン名)管理分野でのご経験豊富な前村昌紀氏が、いわゆるIT部門における合意形成のニーズについて現場のご体験に基づくプレゼンを行っていただきます。その後、パネル・ディスカッションで、**現場にはどのような合意形成ニーズが存在するのか、そのニーズに対処するためにどのような合意形成手法が求められているのか、そしてその手法は誰がどのような形で導入できるのか**という課題について議論を深めていきます。

講演: システム構築における合意形成の必要性及び合意形成手法の活用

(株)日立コンサルティング マネージングディレクター 田熊伸好

インターネットの方針策定プロセス

(社)日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC) IP 事業部長 前村昌紀

日時: 2007年8月2日(木) 19:00～21:00

場所: キャンパス・イノベーションセンター東京

東京都港区芝浦 3-3-6

JR田町駅 芝浦口より徒歩1分、都営三田線・浅草線 三田駅より徒歩5分

参加費: **PI-Forum** 会員 2,000円**PI-Forum** 非会員 2,500円 (会場でお支払いください、領収書発行します)参加お申し込みは <http://www.pi-forum.org/>で